

「公園植栽地の創造的管理計画策定の手引き（案）」がまとまりました。

令和3年にCLA本部内に設置された「公園樹木長寿命化技術研究特別委員会」のワーキングチームでは、関東支部のメンバーが主軸となり植栽地の創造的管理の推進に向けた検討を積み重ねてきました。令和5年には国営昭和記念公園事務所のご協力を得て、同公園花木園でウォークスルー手法による管理の実証実験を行うなど、約4年余にわたり取り組んできました。

このほど成果として『公園植栽地の創造的管理計画策定の手引き（案）』がまとまり、さる令和8年5月27日のCLA令和8年度定時総会後の説明会において公表され、7月16日にはCLA会員各社にデータとして配布されました。また、CLA本部ではこの手引き（案）の詳細な解説として『公園植栽地の創造的管理』に関する3連続セミナーを順次開催しております。

【第1回】 7月22日（水）「公園植栽地の創造的管理計画策定の手引き（案）」の解説

【第2回】 8月19日（水）「植栽地の改善と再デザインのヒント集」と

「ウォークスルーにおける診断・判定資料」の解説

【第3回】 9月16日（水）「デジタルツイン（3D化）技術を用いた計画づくり」の紹介

更には10月（予定）に「ウォークスルー調査」の現地体験セミナーも計画しています。実際にウォークスルー手法を体験できる貴重な機会ですので、大勢の方々のご参加をお待ちしております。



リレー紹介！RLAなヒトビト



紀伊國 友紀 Yuki Kiiuni

登録ランドスケープアーキテクト（RLA）。東京都出身。大学卒業後、橋梁建設会社勤務を経て（株）森緑地設計事務所に入社し、主に公園設計に従事。2024年よりCLA広報委員として「CLA journal」の編集等に携わる。

大学で土木工学を学んだ後に、橋梁の建設会社に就職しました。最初に配属されたのは山梨県の緑豊かな環境にある現場でした。周囲は桃やさくらんぼ農園、背景は八ヶ岳や富士山等を望む雄大な景色が広がっており、後に経験した市街地の現場にはない穏やかな空気が流れていました。社会人一年目、初めての地方での一人暮らし、当時は目の前の仕事と生活に精一杯でしたが、緑の持つ癒しの力を享受していたお陰で、前向きに続けていられたように思います。その後縁があって現在のランドスケープ設計の会社に入社し、造園系の知識がゼロの状態からでもCLAの試験対策セミナー等の手厚いサポート体制のお陰で、RLA資格を取得することができました。

橋は完成形で造られるのに対し、ランドスケープの世界はある意味未完成の形で造られ、時間とともに木々が成長し、人々が関わって空間が成熟していくという大きな違いがありました。この未来の景観を想像しながら設計することが、ランドスケープの仕事の醍醐味の一つであり、難しさを感じているところです。

RLA取得後は、クライアントからいただく信用度が向上したと実感するとともに、CLAの活動を通じて様々な出会いがあり、これまでにない景色が広がっているのを感じています。人とのつながりを大切に、これからもランドスケープに携わっていきたいと思います。

いきものコラム その33 「街路樹・ケヤキで見つけた生きもの」

街を歩いているとき、街路樹の前で少し立ち止まって観察すると面白い生きものと出会えるかもしれません。例えば、葉をよく観察すると表面にこぶのような塊ができてことがあります。これは虫こぶといい、ハエやダニ等が寄生することで葉の細胞が異常に増殖したものです。こぶの中は外敵から隠れながら卵を産むことができ、こぶ自体が餌にもなるという快適な空間になっています。こぶの色は種によって赤や黄など様々で、形もきれいな球であったり洋ナシのような形であったりします。

他にも、葉を切ったり折ったりするオトシブミの仲間がいます。脚を器用に使って葉を二つ折りにし、葉先から巻いていき「ゆりかご」を作ります。内部には卵が産みつけ



写真出典：岩手県林業技術センター樹木園 HP

られ、ふ化した幼虫はゆりかごを食べながら大きくなり、成虫になると出てきます。エゴノキにはエゴノキツルクビオトシブミがゆりかごを作るそうです。体よりもはるかに大きな葉を風に揺られながらテキパキと折り進めていく様子を見ると、元気をもらえます。

ケヤキにはケヤキヒトスジワタムシというアブラムシの仲間が虫こぶ（ケヤキハフクロフシ）を作ります。ケヤキヒトスジワタムシはこの虫こぶの中で育ち、6月頃成虫になると虫こぶを脱出しササ類に引っ越し、晩秋になる

とまたケヤキに戻って卵で越冬するというややこしい生活史を持っています。

普段通り過ぎている街路樹でも、少し立ち止まってみると彼らに出会えるかもしれません。株式会社ブレック研究所 西垣 維音

気になるお店

今回はCLA本部からもほど近い神田川沿いにある歴史を感じる飲食施設をご紹介します。



sta. 神田

神田川の水辺の穏やかな空気の中に、ふと現れる重厚な煉瓦のアーチ。そんな風景の中に静かに佇むのが、sta. 神田です。

この場所には、かつて赤煉瓦造りの万世橋駅があり、人々の往来を支える街のランドマークとなっていました。当時の活気は周辺エリア活性型商業施設という施設全体のコンセプトとして今も息づいています。

店内は当時利用されていた煉瓦がそのまま残され、煉瓦の色合いに合わせた大小様々な

大理石のテーブルが設えられるなど、過去と現在がつながる場となっています。

提供されるのは、日本の家庭料理をベースにひと工夫を加えて丁寧に仕立てられた料理の数々。各地から取り寄せた旬の食材の魅力が引き出されています。

歴史的な空間と現代の食と交差することで、東京の喧騒から少し離れて落ち着いたひとときを過ごすことができます。CLAに立ち寄った際には、ぜひ足を延ばして訪れてみてはいかがでしょうか。

住所 ● 東京都千代田区神田須田町1丁目25番地4 N10-12 区画 **電話** ● 03-6260-8890
営業時間 ● [Lunch・Café] 11:00-17:00 [Dinner] 17:00-23:00 **定休日** ● 毎月第一月曜日（マーチエキュート神田万世橋の休館日に準ずる）**交通** ● 神田駅 JR線北口徒歩6分／秋葉原駅 JR線電気街口徒歩4分 **H.P** ● <https://online-sta.com>



編集後記

先日終了した、サッカーワールドカップは残念な結果でしたが、4年後を楽しみに！本号でも取り上げた、韓国サッカーも日本の躍進・連勝を期待！寄せ集めのチームでも、日本の和の力をもってすれば、くずせない壁はない。ランドスケープでも、多くの力を結集すれば、園芸博成功や、業界に追い風を吹かすことが可能です！（泉地）

みどりの手帖 Vol. 34 2026年9月

発行者 (一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長 板垣久美子
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7 近江会館ビル8階
TEL 03-3662-8266 FAX 03-3662-8268

企画・編集 CLA 関東支部広報委員会 高橋和嗣、宮地奈保子、泉地善雄、中尾慶命、森田 緑、関根千那望

表紙写真 木洩れ日プロジェクトのケヤキ（撮影：高橋和嗣）／小窓写真 GREEN×EXPO 2027 公式ロゴマーク

※テキスト及び画像の転載・転用を禁じます。



CLA 関東支部情報誌

Vol.34 2026.9

みどりの手帖

特集

ランドスケープのしごと

「2027年国際園芸博覧会・木洩れ日プロジェクトとランドスケープ」

CLA関東支部木洩れ日プロジェクトワーキングチーム

CLAの技術・事例紹介

CLA関東支部ニュース

RLAなヒトビト



ランドスケープのしごと: 【2027年国際園芸博覧会】木洩れ日プロジェクトと ランドスケープ

特 集

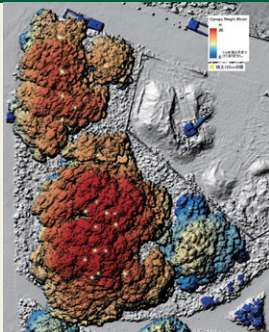


2025年6月14日現地での
初回ウォークスルー調査

2027年3月19日より、横浜市中瀬谷にて2027年国際園芸博覧会が開催されます。日本では1990年に大阪で開催された国際花と緑の博覧会以来のA1クラスの国際園芸博です。これまでCLA・会員各社は、様々な国際博覧会においてコンサルタント業務として計画・設計・監理等を中心に携わってまいりました。今回の国際園芸博においては、それらに加え、初めて出展者として名を連ね、会場内一区画の計画設計・施工・運営維持管理(会期中)を担っていきます。これが「木洩れ日プロジェクト」です。関東支部ではこれらの実務においては、次世代のランドスケープ界のリーダー育成を目指し若手を登用することとなり、7回のワークショップを開催しました。その後CLA本部内にワーキンググループが組成され作業が進んでいます。現在進行形の取組を報告致します。

I. その胎動

2023年CLA本部は「2027年国際園芸博覧会特別委員会」を立ち上げました。2024年には博覧会への初出展を決定し、国際園芸博覧会協会より会場中央部のキッズビレッジの一区画が割り当てられました。「CLAは、62年間にわたる公園緑地に関する計画設計の実績をもとに、会場内のコモンを『明日の公園』に見立て来場者の方々が『幸せと健康を創る明日の公園』で『都市緑地の健康効果』を実感し、『公園のことや公園づくり』についてもっと知っていただくための出展を行います。」という基本方針のもとに、2025



木洩れ日PJエリア
3D点群測量画像



WS序盤の様子

皮切りとなりました。また、2025年12月に協会へ提出する基本設計案作成のために、ベースとなる案を各支部・LBAに募集することとなり、関東支部では若手を中心とするワークショップメンバーが募集されました。

II. その起動

募集に応じて関東支部の6人の若手が集まりました。「かわさきフェアでのイベント経験を世界規模の舞台で



WS中盤の様子

や考え方を学びたい」(鈴木)、「園芸博をCLAの職能や緑の価値を広く知っていただくチャンスと捉え貢献したい」(伏島)などそれぞれ異なる動機でしたが、共通するのは「世界規模の博覧会という大舞台で、普段の業務の枠を超えて自らを成長させ、ランドスケープの力を社会に発信したい」という強い熱意でした。

ワークショップの進展につれて皆の思いは深化し、強い抱負へと高まりました。「設計・準備から実際の開催、終了までイベントの全プロセスに最後まで関わりたい」(菊池)、「木洩れ日プロジェクトを世界中の来訪者の記憶に残る風景にし、これからの自然との関わり方を豊かに進化させたい」(姜)、「ワークショップで触れた集团的創造力をこれからの活動の糧にしたい」(松波)、「提案した企画が実際の展示空間になるのが楽しみであり、最後まで形にしていきたい」(元良)、「ケヤキの木洩れ日空間で、訪れた人が五感で感じ取り、私たちの取り組みを知るきっかけの場をつくりたい」(鈴木)、「出展空間での体験を通じて、来場者が公園や緑



WS佳境の様子

ワークショップは第1回の2025年7月30日を皮切りに10月13日まで計7回開催されました。その中で施設・植栽などハードの計画案に加え、園芸博期間中の豊富なイベントやソフトプログラムの計画も含めてまとめられました。このソフトの計画から求められるハード施設・空間を計画する、「アクティビティベースドプランニング手法」も奏功し、「ランドスケープコンサルタントの職能や仕事を来場者に分かりやすく楽しみながら伝える」といったコンセプトも高く評価され、2027年国際園芸博覧会特別委員会で関東支部案をベースにすることが決定されました。

IV. その連動

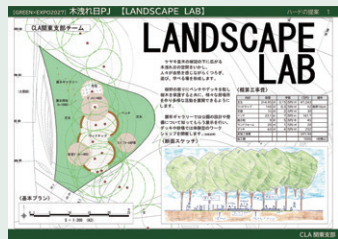
現在この関東支部ワークショップメンバーは、新たにCLA本部内に設置された国際園芸博特別委員会ワーキンググループに発展的に引き継がれました。CLA出展エリア「CLAこもれびらぼ」の設計、ソフトや展示の計画に邁進しています。またこの動きに連動し外部の組織、東海大学建築学科岩崎研究室、神奈川県立吉田島高校や、この2者をつなぐ東海大建築学科杉本元教授等とのコラボレーションが進行中です。この協働の内容は次号にてお知らせする予定です。なおワーキンググループではメンバーを随時募集中です。詳細はCLA本部事務局におたずね下さい。



木洩れ日エリア 現況解析図

について考えるきっかけとなる展示を行いたい」(伏島)など、それぞれ異なるベクトルながら、「ケヤキと太陽が生み出す木洩れ日の空間を舞台に、来場者の五感に響く環境と体験を創り出し、我々ランドスケープアーキテクトのしごとの有様を伝え、未来へのレガシーとなるように繋げたい。」という若々しく熱い志は皆に共通するものになりました。

III. その躍動



関東支部 木洩れ日PJ計画案

CLAの技術・事例特集

❖『おめでとう！17年振りの勝利』

さる2025年10月25日に韓日造景人親善蹴球大会が開催されました。韓国と日本の造園人がサッカー交流を通じて両国の相互理解と友情を深め、緑のまちづくりや公園緑地、景観や環境形成などに関する情報交換と技術的な交流を図る目的で韓日両国で隔年開催しているランドスケープ関係者による交流大会です。第1回大会を2001年9月にソウル市明洞児童公園グラウンドで開催してから今回で第25回にあたります。奇しくも今年は日韓国交正常化60周年にあたり、「日韓国交正常化60周年」事務局より正式な事業認定を受けての開催となりました。今までの日本代表の戦績は3勝2分17敗の圧倒



韓国ゴールに激しく攻め上がる日本代表



日韓選手全員で集合写真

的な負け越し状態で、2008年大阪大会での勝利以来引き分け挟んでしばらく勝利から遠ざかっていました。今回は初めてCLAも後援する事となり注目も集まり、新たな戦力の増強が図られました。東京・大阪・北海道の各チームから構成された代表チームは、女子も含む幅広い年齢層のベテランに若手実力者も加わり総力を結集したチーム力で、見事に3-2で勝利を勝ち取りました。集ったメンバーは、設計コンサル、公園施設などのメーカーや施工業者など

多岐にわたり、年齢もこどもから70代まで幅広い参加がありました。地域チームや日韓ミックスチームなどのフレンドリーマッチやOver45によるBマッチも行われ、幅広い親睦と交流が花開きました。2026年は韓国仁川での開催で初の連勝に向けて期待に胸を膨らませています。

GREEN × EXPO 2027 (2027年国際園芸博覧会) 概要

開催期間：2027年3月19日(金)～2027年9月26日(日)
開催場所：神奈川県横浜市(旧上瀬谷通信施設) 約100ha(会場区域約80ha)
クラス：AIPH(国際園芸家協会) 承認およびBIE(博覧会国際事務局) 認定のA1(最上位)クラスの国際博覧会
テーマ：「幸せを創る明日の風景」Scenery of the Future for Happiness
キャッチコピー：「地球と。咲きに行こう。」
【公式サイト】<https://expo2027yokohama.or.jp>



【関東支部木洩れ日プロジェクトWSシニアアドバイザー】

板垣 久美子(株) 緑の風景計画、鈴木 綾(株) あい造園設計事務所、高橋 和嗣(株) URリンケージ、内藤 計(株) 緑の風景計画、丸山 英幸(株) 愛植物設計事務所、宮地 奈保子(株) アーバンデザインコンサルタント

菊池 俊一郎

Shunichiro Kikuchi
(株) あい造園設計事務所
岩手県二戸市出身
主に都市公園の実施設計やワークショップ運営、PFI関連業務などに携わる。第41回全国都市緑化かわさきフェアでは等々力緑地会場設計の担当を務める。

姜 虹

Hong.J
NIX JAPAN(株)(WS当時)
中国・丹東市出身
中国で公共空間の木製景観施設のデザイナーを務める。日本での留学を経て、東京の建設コンサルタントにて都市公園の実施設計を中心に携わる。

松波 佑哉

Yuya Matsunami
(株) アーバンデザインコンサルタント
群馬県伊勢崎市生れ・東京都東部育ち。大学卒業後、紆余曲折あり2024年に現職。仲良くなったWSメンバーで散歩会をします。興味ある方はぜひ。

元良 文昭

Fumiaki Motoyoshi
(株) 緑景
神奈川県横浜市出身
大学の造園緑地学研究室で学び、里山保全の仕事を経て、設計業務に携わっています。

鈴木 真菜

Mana Suzuki【第二期参加】
(株) 緑の風景計画
静岡県伊豆市出身
美術系大学卒業後に入社。公園・緑地や施設整備等の基本設計、実施設計を中心に携わる。

伏島 香里

Kaori Fusejima【第二期参加】
(株) 緑の風景計画
北海道札幌市出身
造園系大学卒業後、都市公園の実施設計を中心に、特に鳥しょ部の造園設計にも関心を持ち携わる。
自然再生士